

日本学術会議 地球惑星科学委員会 地球惑星科学国際連携分科会

IASC 小委員会（第 26 期・第 1 回）議事要旨

1. 日時 令和 5 年 12 月 25 日（月）15：00～16：30

2. 会場 遠隔会議 Zoom 会議（主催会場：国立極地研究所）

3. 出席状況：

出席者：中村卓司、飯島慈裕、原田尚美、榎本浩之、川合美千代、菊地 隆、
竹内 望、檜山哲哉、吉森和正

欠席者：高倉浩樹、深町 康、山口 一

4. 議題

(1) 第 26 期役員の決定について

資料（1）をもとに説明と確認が行われた。第 26 期の委員長に極地研榎本
が就任することが認められた。

(2) 議事要旨の提出に関する委員長一任について

了承された。

(3) 小委員会委員間のメールアドレス共有について

了承された。

(4) 経過報告

資料（2）を元に、学術会議の第 26 期地球惑星科学委員会組織の構成や 26
期の開始についての説明が行われた。

(5) 第 26 期の活動方針について

令和 6 年 3 月に英国・エジンバラで開催される ASSW2024 の予定が紹介され
た。特に翌年の米国・ボルダーで開催される ASSW2025 に向けて、ASSW2024
では北極の長期計画を検討する ICARP IV 関連会合が多数企画されているこ
とが説明された。

また、ASSW2027 の日本開催を申請する準備についても説明された。

南北両極の極域科学では IPY2032/33 の準備が始まっている。10 月に公開
された IPY コンセプトノートの紹介があった。

(6) IASC WG 日本代表の交代と新代表の推薦について

IASC WG 日本代表の交代については、雪氷 WG で極地研・青木から北大・箕
輪、人文社会 WG について国立民族学博物館・岸上から、東北大・高倉への
交代が承認された。WG 委員の任期は 4 年で 1 回更新できる。また、小委員

会の追加メンバーとして、極地研・當房、内田、北大・大西、箕輪の各氏に委員就任を要請することとなった。

(7) その他

北極の観測活動実施の問題となっている、ロシアでの観測・データ交換・研究者の連絡や交流の状況について情報交換が行われた。

配布資料

4. 配布資料

資料 1 : 第 26 期地球惑星科学国際連携分科会 IASC 小委員会委員名簿

資料 2 : 第 26 期地球惑星科学委員会組織図

資料 3 : ASSW2024 および関連活動資料

参考資料 1—1 : IASC WG 代表一覧表

参考資料 1—2 : IASC 雪氷 WG 代表の推薦書

参考資料 1—3 : IASC 人文社会 WG 代表の推薦書